

ジョージア政治・経済 主な出来事

【2015年5月25日～2015年5月31日】

[当地報道をもとに作成]

平成27年6月4日

在ジョージア大使館

主な動き

1. アブハジア・南オセチア

【アブハジア】

▼アブハジア・ロシア間の司法協力(25日)

・サンクト・ペテルブルグで行なわれた国際司法フォーラムで、ロミア「アブハジア検事総長」とコノヴァロフ露法務相が、アブハジア・ロシア間の刑事事件に関する相互の法的支援および刑法犯の送還に関する合意に署名。

【南オセチア】

▼第55回IPRM会合(25日)

・エルグネティで第55回IPRM会合が開かれた。共同議長は行政境界線付近で山菜採集者などの拘束が増えていることに懸念を表明する一方、ホットラインの活用および未成年者・女性の素早い解放を歓迎。行方不明者の問題に対する取り組みについて協議。

▼「南オセチア共和国大統領」の発言(29日)

・ティビロフ「南オセチア共和国大統領」は露メディアに対し、「南オセチアはロシアの一部になることを望んでいるが、今はそれに適切な時期ではない」と述べた。

2. 外 政

▼ヒダシェリ国防相がアフガニスタンを訪問(25日-26日)

・ヒダシェリ国防相がアフガニスタンを訪問。スタネクザイ・アフガニスタン国防相、キャンベル Resolute Support ミッション司令官らと会談し、ジョージア軍第3歩兵旅団第31中隊と面会。中隊の居住・勤務環境を視察。

・「キャ」司令官はジョージア軍のプロフェッショナルリズムを強調し、国際的な平和維持活動へのジョージア軍部隊の参加について「ヒ」国防相に感謝を述べた。

▼世界知的所有権機関事務局長がジョージアを訪問(27日)

・ガリ世界知的所有権機関事務局長がジョージアを訪問し、ガリバシヴィリ首相、ベルチャシヴィリ外相らと会談。「ガ」首相は、EUとのDCFTAに関連し、知的所有権の保護はジョージアにとっても最も重要な問題の一つであると述べた。

▼ツルキア二法相がウクライナを訪問(27日-30日)

・ツルキア二法相がキエフを訪問し、ウクライナのズブコ副首相、ペトレンコ法相と会談。「ツ」法相は「ペ」ウクライナ法相に刑法や少年司法の分野においてジョージアで実施された改革を紹介し、両国の公証制度、市民登

録、法執行制度などに関して議論した。

▼ドンドゥア第一外務次官が国連事務次長と会談(29日)

・国連本部にてドンドゥア第一外務次官がフェルトマン国連事務次長と会談。被占領地域の状況、ジュネーブ国際会議、ジョージア・国連の協力の見通しなどについて議論。

▼サーカシヴィリ前大統領がウクライナ・オデッサ州行政長官に任命される(30日)

・ポロシェンコ・ウクライナ大統領はサーカシヴィリ前大統領にウクライナ国籍を付与し、オデッサ州行政長官に任命した。「サ」前大統領はジョージア国籍を失うことになる。

・マルグヴェラシヴィリ大統領は、「サ」前大統領がジョージア国籍を放棄したことを、ジョージアの国家と大統領制に対する侮辱であるとして非難。

・2014年11月以降、「サ」前大統領は、ウクライナ副首相への就任を打診されたがジョージア国籍を失いたくないために断ったと何度か述べていた。

▼ジョージア、トルコ、アゼルバイジャンの共同軍事訓練(31日)

・ジョージア、トルコ、アゼルバイジャンの共同軍事訓練「コーカサスの鷲」が始まった。トルコ国内で6月10日まで続けられる。

3. 内 政

▼統一国民運動の4議員が離党(25日)

・統一国民運動(UNM)のジャパリゼ議員(党事務局長)、クブラシヴィリ議員(元国会法務委員会委員長)、ハチゼ議員、メラゼ議員が離党を発表。「ジャ」議員は離党した4名の与党連合およびその他の政治勢力への合流を否定しつつ、「2012年の議会選挙で敗れた後、UNMは『主要な野党勢力』として生き残ったが、国民の信頼を取り戻すべく『再生』することに失敗した」とのコメントを発表。

・2012年の議会選挙以降、10名以上の議員が離党しているが、中心的なメンバーの離党ははじめて。統一国民運動は46議席となった。

・アラサニア自由民主主義者党党首はUNMを離党した4名の議員との協力を否定。

・ガリバシヴィリ首相はUNMがこれまで分裂していなかったのが驚きだとコメント。

▼独立記念日(26日)

・5月26日の独立記念日には、昨年、一昨年と同様、軍

事パレードは行なわれなかったが、トビリシ市中心部の自由広場では 200 名の新人兵士のマルグヴェラシヴィリ大統領に対する宣誓式が行なわれ、ウスパシヴィリ国会議長、ガリバシヴィリ首相、イリア 2 世ジョージア正教会総主教らが出席。また、5 月 11 日から 24 日までトビリシ近郊で行なわれていたジョージア・米共同軍事訓練に参加していた米パラシュート部隊も参加した。

・トビリシなど 12 都市の中心部にジョージア軍の装甲車などが展示された。

▼国会が中央アフリカ共和国およびマリへの軍人の派遣を承認(28日)

・国会は EU のミッションの一環として中央アフリカ共和国にジョージア軍将校 5 名、マリにロジスティクス専門官 1 名を派遣することを全会一致で承認。

・中央アフリカ共和国では、EU の軍事ミッション EUFOR RCA が 3 月に終了した後、EU 軍事助言ミッション EUMAM RCA が開始された。EUMAM RCA は首都バンギを拠点とし、60 名程度のスタッフから構成されている。

▼憲法裁判所が小選挙区制の改正を命令(28日)

・憲法裁判所は現行の小選挙区制を違憲と判断。小選挙区間で人口が大きく異なるのは選挙権の平等の原則に反するとしてナヌアシヴィリ人権保護官らが憲法裁判所に判断を求めている。

・現在、国会 150 議席のうち 73 名が小選挙区で選出される。15 万人以上の人口を持つ小選挙区もあれば、人口が 6 千人に満たない小選挙区もあり、これまで OSCE 選挙監視団などから何度も不備を指摘されていた。マルグヴェラシヴィリ大統領や一部の野党は小選挙区制の廃止を主張しているが、そのためには国会議員 113 名以上の賛成による憲法改正が必要。

・憲法裁判所の判断を受け、ウスパシヴィリ国会議長は、

与党連合が改革案を近い将来に発表するとコメント。

・30 日には「マ」大統領主催の会議に参加した共和党、保守党、国民フォーラムを含む 14 党と 8 つの市民団体が、小選挙区制の変更を求める共同声明に署名。

▼国会欧州統合委員会および農業委員会の委員長の選出(29日)

・ヒダシェリ前欧州統合委員会委員長、アグラシヴィリ前農業委員会委員長がそれぞれ国防相、環境・天然資源保護相に就任したことを受けて、国会はそれぞれの委員会の副委員長であったベルゼニシヴィリ議員（共和党）とサムハラウリ議員を委員長に選出。

4. 経 済

▼2014年の失業率(27日)

・国家統計局の発表した資料によれば、2014 年の失業率は 12.4% (2012 年 15.0%、2013 年 14.6%)。2006 年以降最低を記録した。都市部 22.1%、農村部 5.4%。男性 10.4%、女性 14.0%。

▼経済・持続的発展省の建物の売却(29日)

・トビリシ市中心部の経済・持続的発展省の建物が電子競売にかけられた。初値は 6 百万ドル。買い手は 2018 年までに 100 室以上のホテルを開くことが条件。6 月 26 日に締め切られる。買い手が見ついた場合には 2015 年末に経済・持続的発展省が別の場所に移動することになるが、移動先は決まっていない。

・2 月に通貨ラリの米ドルに対する減価を背景として、政府は国有資産の売却を進める意向を示していた。

▼2015年4月のGDP成長率(29日)

・国家統計局が速報値を発表。2015 年 4 月の実質 GDP 成長率は前年同期比 0.9%。2015 年 1 月～4 月の実質 GDP 成長率の平均は前年同期比 2.6%。